

# 生態系に配慮した、森林資源の利用と 保全のための実証的研究 （「環境林業」実践のための実証的研究）

ひろげる助成

3年目

調査研究

TOGA森の暮らし塾 70人

TOGA森の暮らし塾  
(地域向け) 30人

今年度計画の達成度 80%

目標達成度 70%



雪上にて、手ゾリで木材を搬出する様子

## 苦勞した点と工夫した点

### ■ 苦勞した点

「環境林業」による効果の「客観的な評価」を目指したが、現時点では難しく、マニュアル化、CSRの提案などの最終的な成果に結びつかなかった。

### ■ 工夫した点

岐阜、奈良、長野をはじめ多くの地域、とりわけ現場サイドで、「従来型林業」に対する、オルタナティブな林業の模索が始まっており、これらの情報収集・意見交換に努めた。

## 課題

林業等においては、森林生態系への適切な配慮がないまま、大規模に（年間約50万haの間伐等）実施されており、森林生態系の保全と持続的利用のためのルール作りが課題。

## 目標

生態系に配慮した森林資源の持続的な保全と利用の手法である「環境林業」を確立し、これを担う人材を育成して、森に寄り添った持続可能な地域社会のモデルを形成を目指す。

## 活動内容と成果

富山県南砺市利賀村上島地区の更新伐作業において、「環境林業」を試行。①現況を把握するための事前調査、②具体的な更新目標の検討、③施業方針を検討、④施業を実施、⑤実施後の実生の発生状況などをモニタリング。（更新伐作業は、従来、明確な目標を設定せず、また事後の評価も行わない事例がほとんど。）森を見る、森を使う、森に暮らすの三つのチカラを習得し、「環境林業」を担う人材を育て「TOGA 森の暮らし塾」を実施し、課題や成果を収集。今後は、（一社）TOGA 森の大学校と連携、人材育成と環境林業を継続する。



スギの林内でオオバコ回モジを収穫する様子



雪山のフィールドにおける記念撮影の様子

## 全助成期間の活動を振り返って

本活動は、「環境林業」というお手本の無い新しい林業を模索し、それによって過疎化で消失しつつある地域を救おうとする、ある意味“無謀な”試みだった。が、さまざまな追い風を受け、多くの人に助けられながら、「環境林業」を実践、人材育成を行う「TOGA森の大学校」の設立に至った。これは、富山県森林研究所の長谷川幹夫氏や富山大学の奥敬一氏らの人的ネットワークの賜物であり、これこそが本活動の最大の成果だったと思う。

| 活動地域 |  富山県南砺市利賀村

〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬537

電話：0763-68-2177

E-mail：moribio@hotmail.co.jp

http://www.moribio.com/



今後の  
展望

環境省は「地域循環共生圏」を提唱し、環境問題をはじめ経済・社会の複合的な課題を横断的かつ統合的に解決する必要性を提示している。森林にまつわる課題も複合的であり、経済学者の宇沢弘文氏は、社会的共通資本としての森林を、「高い倫理観を持った専門家集団に管理されるべき」としている。私たちが森林から享受している諸機能の多面性を考えれば、その管理の複雑さは自明であり、これに対応する人材育成が急がれる。